

令和5年度 黄金中学校 努力点

1. 本校教育目標

真理を求め、正義を愛し、個人の価値を尊び、自主的精神に満ちた、心身ともに健康な青少年を育成する。

2. 名古屋市学校教育の努力目標

ともに学び 自分らしく生きる

- なかまとの対話を大切にし、ICTを活用して、主体的に学ぶ子どもの育成
- 何が起きるか、わからない、人生をたくましく生きる力を備えた子どもの育成

3. 本校の学校教育努力点と推進計画

(1) 本校の努力点

主体性を磨き、仲間と共に成長できる生徒の育成
～学校DXの中でICT活用と既存の学習指導の融合を目指して～

(2) 努力点の設定理由

本校の生徒は、学習に前向きであり、授業に積極的に取り組む。また、学校行事には主体性を発揮して参加している。2021年度にタブレット端末が全生徒に配付され、各教科ともさまざまな場面でタブレットを利用できる状況にある。情報共有ソフト（ロイロノートなど）を活用して、発展的対話、思考交流をされている授業やカメラ機能、インターネットへの接続で学習を進める授業など教師が工夫を凝らして、深い学びになるように研鑽をしている。

学習者である生徒の意見としては以下のようなものがある。

2022年度「第1回学校生活アンケート」において（2022年7月実施）

① なかまと学び、主体的に表現していくために必要なことは何ですか。（回答の多い順）

「友達とのグループワーク」「タブレット等の道具」「一人で考える時間」

② 主体的に表現するには、どのような方法が取り組みやすいですか。（回答の多い順）

「グループでまとめてプレゼンテーション」「個人でまとめてプレゼンテーション」

2022年度「第2回学校生活アンケート」において（2023年1月実施）

① なかまと学び、主体的に表現していくために必要なことは何ですか。（回答の多い順）

「友達とのグループワーク」「一人で考える時間」「タブレット等の道具」

② 主体的に表現するには、どのような方法が取り組みやすいですか。（回答の多い順）

「グループでまとめてタブレットを用いてプレゼンテーション」「グループでまとめて口頭発表」

とグループでの学びを主張する一方、個人で考えを深めることも重視するなど、主体的に学ぶことについて「生徒の学びの在り方」を自分の考えをもつことに至っている。

また、タブレットの活用についても、「タブレットを使うことも大切だが、手書きの課題やまとめも必要だと思う」「発表や調べものにタブレットを使えばよいというものではない、いろいろな方法を試したい」など、タブレットありきの学習に警鐘を鳴らす意見も出ていた。

また、2022年度の保護者アンケートの結果から考えると、「学校は、ICTを活用してなかまと学び合う授業づくりに取り組んでいる」という設問にたいして、第1回目は「そう思う」「やや思う」が65.5%、「あまり思わない」「思わない」14.5%であった。しかし、第2回目では、「そう思う」「やや思う」が75%、「あまり思わない」「思わない」12%という結果であり、生徒が家庭学習の一場面でもICT活用の活用をした学習場面があったり、家庭内の会話の中でICT活用について述べたりする状況が想像でき、生徒の学習についての表現が保護者に伝わっていることが考えられる。

生徒の実態や実践から、今年度の学校教育努力点を「主体性を磨き、仲間と共に成長できる生徒の育成～学校DXの中でICT活用と既存の学習指導の融合を目指して～」とした。

授業や学校行事などでタブレット端末等情報ツールを活用しながら、自分の考えや意見をまとめ表現すること、仲間と交流し、まとめられた情報を伝わりやすく表現・アピールし、思考力の向上、判断力の精鋭、表現力の育成を目指すことを努力点の内容として付記することが大切である。また、一人ひとりの生徒が、

学校生活のあらゆる場面や多くの機会に仲間とともに主体的、対話的な取り組みを重要にして、達成感や自己肯定感を高めることやこれからの時代を担う社会の形成者として自立ができることを目指し、本主題を設定した。

(3) 重点目標

＜目指す生徒像＞

- 互いの良さを認め、思いやることのできる生徒。
- 目標を持ち、粘り強くやり遂げようと努力する生徒。

【学習面】 確かな学力の定着 学ぶ意欲の向上

- ・ 授業力の向上 ・ 補充授業の充実 ・ 読書習慣の定着 ・ 信頼される評価

【生活面】 ルールの順守 マナーの向上

- ・ あいさつの励行 ・ 時間を守る ・ ルールを守る ・ いじめをなくす、発見する ・ 心の教育の充実

【特活面】 自主的、実践的に取り組み自己実現を図る

- ・ 一人一人を生かす学級活動 ・ 達成感や感動を味わえる行事の計画と運営 ・ 生徒会活動の充実

【保健面】 健康で安全な生活が送れるよう互いを思いやる生徒の育成を目指して

- ・ 互いに思いやりをもち、支え合いながら健康で安全な生活を向上させる保健・安全指導
- ・ 対話を通して、なかまの健康・安全について考えようとする態度の育成
- ・ タブレット端末等を活用して情報収集し、交通安全や減災について考え、支え合おうとする心の育成

(4) 推進計画

	内 容
4月	学校努力点の決定、各部の指導方針等の検討・立案
5月～7月	各部会での推進計画等の検討・立案 授業実践①、学年部会での授業参観、 1学期の反省（努力点推進進捗状況確認）
7・8月	研修会への参加等
9月～12月	授業実践②、2学期の取り組みの検討、中間報告 学年部会や各教科での授業参観、各教科での授業参観、 2学期の反省（努力点推進進捗状況確認）
1月	学校評価アンケートの実施・集計・分析
2月～3月	本年度の反省と次年度への課題確認、年度末反省会（努力点推進進捗状況最終確認）、努力点のまとめ検討、努力点のまとめ報告会

(5) 推進方法

- 現職教育部会、学習指導部会、生徒指導部会、特活指導部会、保健指導部会、学年のそれぞれが目指す生徒の姿を具体的に考え、努力点目標に迫るための手だてを設定し、指導に取り組む。
- 「黄金だより」（学校通信）や、学年保護者会、学区連絡協議会などを通じて、努力点の取り組みを保護者や地域へ発信する。授業参観では、授業後は、授業アンケートを取り、参観した授業に対する感想や意見を求め、授業改善の一助として活用する。